

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	株式会社松菱 北大阪D.C 新築工	階数	地上4F
建設地	大阪府茨木市彩都もえぎ一丁目	構造	S造
用途地域	準工業地域、準防火地域	平均居住人員	20 人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,250 時間/年(想定値)
建物用途	事務所、工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2021年9月 予定	評価の実施日	2020年10月15日
敷地面積	5,762 m ²	作成者	大和ハウス工業株式会社 小島淳弘
建築面積	3,229 m ²	確認日	2020年10月15日
延床面積	9,400 m ²	確認者	大和ハウス工業株式会社 小島淳弘



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.1 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

46 (kg-CO₂/年・m²)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.6

Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.7

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.2

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.0

LR のスコア = 3.6

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.2

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.8

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.5

3 設計上の配慮事項		
総合	十分な広さのあるリフレッシュスペースの計画は作業者の快適な環境につながる	その他 特になし
Q1 室内環境	自然換気有効開口が居室床面積の1/30以上	Q2 サービス性能 リフレッシュスペースが執務スペースの1%以上で十分な空間の確保
Q3 室外環境(敷地内)		特になし
LR1 エネルギー	BPI値=0.88、BEI値=0.52	LR2 資源・マテリアル 省水型機器を採用
		LR3 敷地外環境 ライフサイクルCO ₂ 排出率=75%

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

大阪府建築物環境配慮評価システム2018年版 大阪府の重点評価(結果)

受付番号

R2-0089

Osakafu-新築・既存 2018V1.0

【建物概要】	建物名称	株式会社松菱 北大阪D.C 新築工事					
	建設地	大阪府茨木市彩都もえぎ一丁目					
	用途/区分	工場 事務所					
【評価結果】	CASBEE 総合評価					B+	
①	CO2削減					4	
②	みどり・ヒート アイランド対策					2	
③	建物の断熱性					4	
④	エネルギー削減					5	
⑤	自然エネルギー直接利用					—	
	再生可能エネルギー 利用施設の導入状況	太陽光発電	—	風力	—	地熱	—
		太陽熱利用	—	水力	—	バイオマス	—

エネルギー消費量の報告

対象外

【評価項目】

項目	評価内容	スコア	評価
① CO2削減	CASBEE「LR3-1」のスコアによる評価	3.9	4
② みどり・ヒートアイランド対策			
生物環境の保全と創出	CASBEE「Q3-1」のスコアによる評価	2.0	2
敷地内温熱環境の向上	CASBEE「Q3-3. 2」のスコアによる評価	2.0	
温熱環境悪化の改善	CASBEE「LR3-2. 2」のスコアによる評価	3.0	
③ 建物外皮の熱負荷抑制	CASBEE「LR1-1」のスコアによる評価	4.2	4
④ 設備システムの高効率化	CASBEE「LR1-3」のスコアによる評価	5.0	5
⑤ 自然エネルギー利用	CASBEE「LR1-2」のスコアによる評価	3.0	—
エネルギー消費の実態把握に努める	エネルギー消費量の実績を3年間報告する。	報告する 報告しない	対象外

その他

	技術の名称	考慮事項
先進的技術の導入		
特に配慮した事項		